

資料 2

令和6年度
第1回
外部評価委員会



MIYAZAKI AGRICULTURAL JUNIOR COLLEGE

宮崎県立農業大学校

令和5年度 評価項目一覧

		ページ	内部	外部		
1 学生確保	ア 情報発信	教務学生課	1	B	B	
	イ 募集活動	教務学生課	3	A	A	
	ウ 講義・実習	教務学生課	5	B	A	
		農学科	7	B	A	
		畜産学科	9	B	A	
フードビジネス専攻		11	B	A		
2 教育の質の向上	エ 研修	① インターンシップ	教務学生課	13	B	A
		農・畜産学科	15	B	B	
	② 職員研修	教務学生課	17	B	A	
		農学科	19	B	A	
		畜産学科	21	B	A	
		フードビジネス専攻	23	B	A	
	オ プロジェクト学習	農学科	25	B	A	
		畜産学科	27	B	A	
		フードビジネス専攻	29	B	A	
	カ 学生指導・支援	教務学生課	31	C	C	
		農学科	33	B	B	
		畜産学科	35	B	B	
	3 進路指導	キ 資格取得	学校全体	37	B	B
ク 就農・就職対策		学校全体	39	B	B	

令和6年度 評価項目一覧

		ページ	内部	外部
1 学生確保	ア 情報発信	教務学生課	2	
	イ 募集活動	教務学生課	4	
2 教育の質の向上	ウ 講義・実習	教務学生課	6	
		農学科	8	
		畜産学科	10	
		フードビジネス専攻	12	
	エ 研修	① インターンシップ	教務学生課	14
		農・畜産学科	16	
	② 職員研修	教務学生課	18	
		農学科	20	
		畜産学科	22	
	オ プロジェクト学習	フードビジネス専攻	24	
		農学科	26	
		畜産学科	28	
	カ 学生指導・支援	フードビジネス専攻	30	
		教務学生課	32	
		農学科	34	
3 進路指導	キ 資格取得	畜産学科	36	
	ク 就農・就職対策	学校全体	38	
		学校全体	40	

評価項目	1. 学生確保	ア. 情報発信	教務学生課
------	---------	---------	-------

令和5年度の目標	①校内外に向けた学校HP・SNSを活用した情報発信 ②県内農業高校等及び就職先となる農業法人や農業関連企業・団体への教育成果や学校行事の情報提供
----------	---

■取組計画

令和5年度目標達成のための取組と成果(取組の☆は、新たな取組又は強化する取組)

※「目標」の番号と「取組」の番号は呼応

◇目標に対する取組等

①校内外に向けた学校HP・SNSを活用した情報発信

- ・こまめに情報をアップすることに努め、年間100回の更新
- ・更新する人数の増員
- ・電子掲示板や掲示板を活用し、掲示情報の充実
- ・メールでの発信やTeamsを活用した、情報共有による業務の効率化
- ・安心安全メールの配信に向けたルールづくり

②就職情報の共有

- ・学生が活動する行事等での事前事後指導による教育効果の充実及び本校の教育力の発信に努める。
- ・県内の農業法人協会や農業関連企業等との人材育成確保に関する連携を強化し、高鍋町ハローワークと連携した情報発信に努める。

■取組実績と成果

①校内外に向けた学校HP・SNSを活用した情報発信

- ・Facebook更新 目標：年間100回以上 結果104回(達成率104%)
- ・農大ホームページ更新 目標：年間20回以上 結果19回(達成率95%)
- ・安心安全メール更新 目標：年間1000回以内 結果1466回(達成率146%)

※特に安心安全メールでの連絡が多すぎて、メール離れになっている

※情報発信に関しては、担当任せになることが多かった

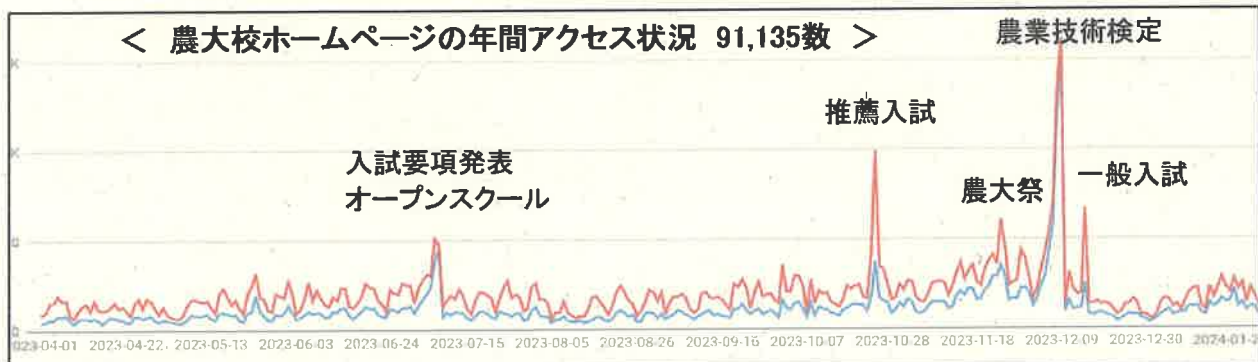
※何年も前から未更新のページがあると指摘を受けた。

※学生便覧に明記してある時期に、更新するように指摘を受けた

②就職情報の共有

- ・就職相談会(法人マッチング) 目標55社：結果64社が参加(達成率116%)
- ・ハローワークとの進路相談会を6月と3月に実施し、進路決定に繋がった。

< 農大校ホームページの年間アクセス状況 91,135数 >



内部評価	B	・校内外に向けた学校HP・SNS等は計画以上の情報発信を行った。 ・法人マッチングやハローワークとの連携した相談会を通じた就職情報の共有が図られた。
外部評価	B	年間をととして、目的どおり実施され評価できる。

◆次年度への課題

- ・情報発信についてタイミングを図りながら、計画的な情報の発信に努める。
- ・担当任せにならないよう、組織として効果的な情報発信に向けた体制づくりに努める。

評価項目	1. 学生確保	ア. 情報発信	教務学生課
------	---------	---------	-------

令和6年度の目標	校内外に向けた学校HP・SNSを活用した情報発信
----------	--------------------------

■取組計画

☆は、新たな取組又は強化する取組

※「目標」の番号と「取組」の番号は呼応

◇目標に対する取組等

①校内外に向けた学校HP・SNSを活用した情報発信

- ・情報アップと更新に努める。Facebook年間100回の更新、ホームページ30回更新
- ・電子掲示板や掲示板を活用し、掲示情報の充実
- ・メールでの発信やTeamsを活用した、情報共有による業務の効率化
- ・情報発信についてタイミングを図りながら、計画的な情報の発信 ☆

②効果的な情報発信に向けた体制づくり ☆

- ・更新する人数の増員
- ・安心安全メールの配信に向けたルールづくり

■取組実績と成果

--	--	--

内部評価		
外部評価		

◆次年度への課題

--

評価項目	1. 学生確保	イ. 募集活動	教務学生課
------	---------	---------	-------

令和5年度の目標	入学定員65名の確保（農学科40名、畜産学科25名）
----------	----------------------------

■取組計画

令和5年度目標達成のための取組と成果(取組の☆は、新たな取組又は強化する取組)

※「目標」の番号と「取組」の番号は呼応

◇目標に対する取組等

①教育内容のPR

- ・学校説明会や進路ガイダンスへの積極的な参加
- ・高校訪問、オープンキャンパスの工夫
- ・高校訪問による授業参観及び意見交換会の実施
- ・農業系以外の高校（普通、工業、商業、海洋、私立校など）にPR活動の強化を図る。
- ・県外校へのPR活動を図る。
- ・四年制大学への編入可能な専修大学校であることを周知を図る。

②積極的な情報発信

- ・学校HPやSNSを活用した情報発信
- ・関係機関の事務所等にも、学生募集の資料、チラシ等の配布、掲示等を依頼する。
- ・学校行事や取組等で、マスコミ（新聞・TV等）の積極的な活用

■取組実績と成果

①教育内容のPR

- ・高校訪問：4～5月（管理職）、6～7月中旬（一般職員）で、学校状況や入試等を説明
- ・オープンキャンパスⅠ：7月（63人参加）、8月（53人参加）計116人 → 目標達成
- ・オープンキャンパスⅡ：10月～1月 各農業高校の1年生または2年生 計375人 → 目標達成
- ・進路ガイダンス：26回/年 実施
- ・県外高校へのPR：曾於高校（鹿児島）・・・説明会参加
- ・4年制大学への編入PR：高校での説明会では必ず行った。

②積極的な情報発信

- ・農大祭や農大市、また日頃の大学校生活等の様子を随時発信した（HPやFacebook）。
- ・情報発信について、他県の問い合わせもあった。
- ・農大祭ではポスター等にてPR活動を実施した。

入学生の推移

年度	定員	入学生	うち、農学	うち、畜産	充足率
令和2年	65	61	44	17	94%
令和3年	65	52	35	17	80%
令和4年	65	54	31	23	83%
令和5年	65	64	40	24	99%
令和6年	65	72	41	31	111%

令和6年度入学生72名のうち
県外からの入学生9名

{ 熊本③、大分①、
岡山②、奈良①、
大阪②

内部評価	A	・定員65名を上回る72名（111％）の新入生を確保した。 ・県外から9名の入学があり、今後の学生確保が期待できる。 ・学校HP等やマスコミの積極的な活用による情報発信を行った。
外部評価	A	・内部評価のとおり、目的以上の成果が達成された。

◆次年度への課題

農業高校からの入学者が減少している中、農業高校以外からの入学者確保に向けた対応策の検討が必要

評価項目	1. 学生確保	イ. 募集活動	教務学生課
------	---------	---------	-------

令和6年度の目標	入学定員65名の確保（農学科40名、畜産学科25名）
----------	----------------------------

■取組計画

☆は、新たな取組又は強化する取組

※「目標」の番号と「取組」の番号は呼応

◇目標に対する取組等

①教育内容のPR

- ・学校説明会や進路ガイダンスへの積極的な参加
- ・高校訪問、オープンキャンパスの工夫
- ・高校訪問による授業参観及び意見交換会の実施（農業高校以外） ☆
- ・農業系以外の高校（普通、工業、商業、海洋、私立校など）にPR活動の強化
- ・県外校へのPR活動
- ・四年制大学への編入可能な専修大学校であることを周知

②積極的な情報発信

- ・学校HPやSNSを活用した情報発信
- ・関係機関の事務所等にも、学生募集の資料、チラシ等の配布、掲示等を依頼
- ・学校行事や取組等で、マスコミ（新聞・TV等）の積極的な活用

■取組実績と成果

--	--	--

内部評価		
外部評価		

◆次年度への課題

--

評価項目	2. 教育の質の向上	ウ. 講義・演習	教務学生課
------	------------	----------	-------

令和5年度の目標	教育計画に基づく実践力の習得
----------	----------------

■取組と計画

令和5年度目標達成のための取組と成果(取組の☆は、新たな取組又は強化する取組)

※「目標」の番号と「取組」の番号は呼応

◇目標に対する取組等

- ①授業評価による指導力向上と授業改善に努める。
 - ・教科(科目)の指導力向上(わかりやすい授業、学習内容を深める工夫)
- ②職員研修による指導力向上を図る。
 - ・ICT活用に関する職員研修の実施(タブレット活用術)
 - ・学校教育法が求める専修学校としてふさわしい教育環境の充実(継続)
- ③基本となる主な資格取得の充実を図る。
 - ・全学生(大特、農業技術検定3級)100%合格
 - ・新たな資格取得への挑戦(ドローン)
- ④職員研修の実施で職員の指導力向上を図る。
 - ・学生理解の向上。(学生の多様性に対応)
 - ・教科(科目)の指導力向上(わかりやすく、学習内容を深める工夫)
 - ・ICT機器を活用した科目指導、学校運営の向上

■取組実績と成果

- ①授業評価による指導力向上と授業改善
 - ・学生の評価項目「講義に対する満足度」では、10年満点で7.6点であり、授業改善の参考になった。
- ②職員研修による指導力向上
 - ・農業系高校8校を訪問し、ICT活用について授業参観した結果、アンケートでは9割の職員が参考になったと回答し、指導力向上に繋がった。
- ③基本となる主な資格取得の充実
 - ・大特やけん引に関する資格取得では、受験者103人全員合格(100%)
 - ・ドローン操作資格27名受験者全員合格(100%)
- ④職員研修の実施で職員の指導力向上
 - ・「発達障がい者研修」を実施し、自閉スペクトラム症について理解を深めた。
 - ・学生の多様化に対応し、次年度のカリキュラムを改訂した。

内部評価	B	・学生の評価は7.6であったが、授業改善の参考になった。 ・農業系高校での授業参観では、9割の職員が参考となり授業改善に繋がった。 ・大特やけん引、ドローン受験者は100%合格した。 ・職員研修にて学生理解に努められた。
外部評価	A	・学生一人一人を理解し、教科指導、生活指導に取り組まれている点が評価できる。

◇次年度への課題

令和6年度に改訂するカリキュラムについて検証し、わかりやすい授業に展開及び工夫する必要がある。

評価項目	2. 教育の質の向上	ウ. 講義・演習	教務学生課
------	------------	----------	-------

令和6年度の目標	学生の多様化に対応したカリキュラムの構築
----------	----------------------

■取組と計画

☆は、新たな取組又は強化する取組

※「目標」の番号と「取組」の番号は呼応

①学生の多様化に対応したカリキュラムの構築

・改訂したカリキュラムの検証 ☆

※新科目「有機農業概論」「有機JAS演習」「農業気象学」「病虫害基礎」

※習熟度別「農業科学基礎」「数学基礎」

※資格取得の推進（入学前に取得した資格の単位化）

※4年制大学編入を見越したカリキュラム編成

・授業評価による授業改善と指導職向上

・職員研修による指導力向上（学生指導、学習指導）

・ICT活用に関する校内外研修を実施

■取組実績と成果

--

内部評価		
外部評価		

◇次年度への課題

--

評価項目	2. 教育の資質向上	ウ. 講義・演習	農学科
------	------------	----------	-----

令和5年度の目標	①講義や実習及びプロジェクト活動の効率的実施による、各専攻毎の基本的な作物栽培技術と経営スキルの習得 ②「ひなたGAP」や「ASIA GAP」などGAP実践による適正な農場管理手法の習得(☆) ③スマート農業への対応やドローン、複合環境制御装置を導入した園芸ハウスを活用した先進的な農業技術の習得
----------	---

■取組計画

令和5年度目標達成のための取組と成果(取組の☆は、新たな取組又は強化する取組)
※「目標」の番号と「取組」の番号は呼応

◇目標に対する取組等

- ①基本的な作物栽培技術と経営スキルの習得
 - ・安全安心な農産物を生産のため、農場長、各部長を中心とした自主的な農場運営を実施
 - ・県内の先進的農業経営体での事例研究など校外学習の実施
 - ・実践的な販売力を身につけるため、「アグリカレッジひなた」との連携による地域イベントへの積極的な参加
- ②GAP実践による適正な農場管理手法の習得
 - ・作物専攻：ひなたGAP更新審査(穀物)合格に向けた自己点検や工程管理、次年度の青果物(露地野菜)の新規取得に向けた準備(☆)
 - ・野菜専攻：ASIA GAPの更新審査に向けた自己点検や工程管理、ひなたGAPの実践
 - ・果樹専攻：ASIA GAPの更新審査(マンゴー)に向けた自己点検や工程管理
 - ・フードビジネス専攻・・・ひなたGAP(ピーズ)の実践
- ③先進的な農業技術の習得
 - ・関連企業や大学等と連携した講義：1年生〔スマート農業基礎〕
2年生〔スマート農業活用〕の実施
 - ・省力化に向けたドローンの活用(イネ、コムギ、露地野菜、露地ミカン等)

■取組実績と成果

- ①基本的な作物栽培技術と経営スキルの習得
 - ・農場長を中心とし、プロジェクトやGAP実践等、自主的な農場運営ができた。
 - ・輸出に取り組む農業法人や複合環境制御実践農家に加え、福岡県の直売所や市場など幅広い分野で校外研修を行うことで、栽培技術や流通販売の知識を習得した。
 - ・アグリカレッジひなたと連携し、春のフローランテ祭やUMKハロウィンかぼちゃ祭りの出店を通して生産物のPR方法を学ぶなど、経営スキルの向上につながった。
- ②GAP実践による適正な農場管理手法の習得
 - ・ASIA GAP〔青果物〕とひなたGAP〔穀物〕の更新審査で認証取得。
 - ・ひなたGAP〔青果物〕では、ピーズの取引終了に伴い、フードビジネス専攻での実践が出来なくなったが、作物専攻で原料用かんしょの次年度認証に向け、リスク分析と対策を実施。花専攻でも次年度の〔花〕の新規取得に向け危険箇所等の自己点検と農作業に関する取組や改善を実施。

◇学科全体で学生のGAP実践力が高まり、理解力向上につながっている。
- ③先進的な農業技術の習得
 - ・スマート農業の講義において、1年生は関連企業からアシストトラクター等の実践的な操作方法等を学び、2年生はタブレットを活用した演習でICT技術に対する知識を深めた。
 - ・ドローンの活用では、作物専攻で6品目(イネ、ダイズ、コムギ、カンショ、サトイモ、スイートコーン)、果樹専攻で露地ミカンで農薬散布を行うなど学生の利用機会が増え、延べ10名のスキルアップにつながった。

内部評価	B	・アグリカレッジひなた活動で経営スキルが向上した。 ・ひなたGAPの取組拡大で、学生のGAP実践力が高まった。 ・講義・実習を通してスマート農業等先進的な農業技術の習得ができた。
外部評価	A	・栽培技術や経営スキルの高まりに加え、GAPは計画どおりに認証され、作物、花専攻が新規取得に向けた取組を行った。 ・ドローンは学生の利用機会が増え、スキルアップが図られた事が評価できる。

◆次年度への課題

- ・定期異動でドローンの実践指導力維持が難しいため、職員研修や外部講師による指導等で、指導力向上に向けた工夫が必要である。
- ・有機JAS認証取得に向け、GAPを含めた認証の種類と品目の絞り込みなど、特に青果物において認証取得の方向性を検討する。

評価項目	2. 教育の資質向上	ウ. 講義・演習	農学科
------	------------	----------	-----

令和6年度の目標	①基本的な栽培技術と経営スキルの習得 ②スマート農業等の先進的な農業技術の習得
----------	--

■取組計画

☆は、新たな取組又は強化する取組

※「目標」の番号と「取組」の番号は対応

①基本的な栽培技術と経営スキルの習得

- ・県内外の先進的農業経営体での校外学習の実施
- ・「アグリカレッジひなた」を活用した地域イベントへの参加
- ・有機JAS、各種GAP認証取得の方向性検討☆
 ひなたGAP〔青果物〕新規取得（1品目）☆、ひなたGAP〔花〕新規取得（1品目）☆
 有機JAS認証取得のための圃場づくり☆

②スマート農業等の先進的な農業技術の習得

- ・関連企業や大学等と連携した講義の実施
- ・ドローン実践指導力向上のための職員の資格取得計画の作成と担当職員間の技術向上のための情報共有☆
- ・省力化に向けたドローンの活用（8品目11フライト→8品目20フライト）
- ・ICT機器の活用による栽培履歴等の共有化（1専攻→2専攻）☆

■取組実績と成果

--

内部評価		
外部評価		

◆次年度への課題

--

評価項目	2. 教育の資質向上	ウ. 講義・演習	畜産学科
------	------------	----------	------

令和5年度の目標	①畜産を担うための生産技術及び経営スキルの習得 ②GAPの実践による適正な農場管理手法の習得と農場生産性の向上による ・実習意欲の向上 ③ICTを活用した先進的なスマート農業技術の取得
----------	---

■取組計画

令和5年度目標達成のための取組と成果(取組の☆は、新たな取組又は強化する取組)

※「目標」の番号と「取組」の番号は呼応

◇目標に対する取組等

- ①生産技術及び経営スキルの習得
 - ・関係団体、畜産関係企業、畜産法人等と連携した実践的な講義、研修、校外学習の実施
- ②GAPの実践による生産性や学習意欲の向上
 - ・酪農、肉用牛専攻におけるJGAP家畜・畜産物の認証取得
 - ・講義や校外学習、実習によるGAPの取り組み指導及び取り組み徹底
- ③スマート農業技術の取得
 - ・企業や大学、法人と連携したICTの講義、スマート農業基礎【1年生】、スマート農業活用【2年生】の実施
 - ・ICT機器や環境制御牛舎を活用したデータに基づく実習の実施

■取組実績と成果

- ①生産技術及び経営スキルの習得
 - ・専門講義実施機関による実践的な講義を実施
家畜改良事業団、畜産試験場、全国和牛登録協会宮崎県支部、宮崎経済連など
 - ・スキル習得のため、積極的な資格所得の取組
家畜人工授精師(21名)、家畜体内受精卵移植師(2名)、削蹄師(21名)、家畜商(12名)・・・100%合格
 - ・校外学習における優良事例視察
大分県の大規模酪農経営、JA綾の繁殖センター、雲海酒造TMRセンター、ミヤチク都農工場
- ②GAPの実践による生産性や学習意欲の向上
 - ・講義「農業生産工程管理」、「GAP演習」を開講
今年度は更新審査を実施、改めて農場での作業工程や安全管理の見直しを行い、学生主導で更新審査に対応することができた。
講義、実習を通じ学生がGAP認証及びその取組に対する知識と理解を深めた。
- ③スマート農業技術の取得
 - ・講義「スマート農業活用」
外部講師：北里大学、富士通やヤンマーアグリジャパン、南栄工業など
専門性の高い外部講師の指導により学生の畜産ICTに関する知識と理解を深める事ができた。
 - ・ICTデータによる繁殖性や生産性の向上、プロジェクト学習へのデータの活用により、実践的な学びにつなげることができた。

内部評価	B	・専門講義や視察等を通じ経営スキルの取得が図れた。 ・GAP審査に学生主導で対応することで生産性の向上につながった。 ・講義や実習を通してスマート農業技術が習得できた。
外部評価	A	講義や実習を通じ、必要な専門的技術、知識が習得できていると考える。 GAPについても学生主導で対応できており高く評価できる。

◆次年度への課題

GAPの取組において学生が指示を受けて対応する場面が多いので、主体的な取組を誘導する必要がある。
 繁殖性の向上などにおいてより具体的な効果が出るよう、ICT機器を十分に活用できる体制を構築する。

評価項目	2. 教育の資質向上	ウ. 講義・演習	畜産学科
------	------------	----------	------

令和6年度の目標	①畜産を担うための生産技術及び経営スキルの習得 ②GAPへの学生の主体的な取組を通じた農場生産性の向上と事故発生0の実践 ③飼養管理成績向上に向けたICT機器の効果的活用
----------	---

■取組計画

☆は、新たな取組又は強化する取組

※「目標」の番号と「取組」の番号は呼応

- ①生産技術、経営スキルの習得
 - ・畜産関係団体、畜産関係機関と連携した実践的な講義、研修及び各種資格取得を通じたスキルの習得
- ②GAPに対する学生の主体的取組
 - ・講義や校外学習、実習によるGAPの取り組み指導及び取り組み徹底
 - ・農場管理において学生が自ら作業工程の計画、実践、帳簿管理等を行う体制の構築
- ③ICT機器の効果的活用
 - ・企業や大学、法人と連携したICTの講義
 - ・スマート農業基礎【1年生】、スマート農業活用【2年生】
 - ・ICT機器の効率的活用のためのマニュアル整備による農場成績の向上

■取組実績と成果

--	--

内部評価		
外部評価		

◆次年度への課題

--

評価項目	2. 教育の資質向上	ウ. 講義・演習	フードビジネス専攻
------	------------	----------	-----------

令和5年度の目標	①食品加工から流通・販売までの <u>フードビジネスに幅広く対応できるスキルの習得</u> ②原材料となる <u>農畜産物の生産に関わる基礎知識の習得</u>
----------	--

■取組計画

令和5年度目標達成のための取組と成果(取組の☆は、新たな取組又は強化する取組)

※「目標」の番号と「取組」の番号は呼応

①フードビジネスに幅広く対応できるスキルの習得

- ・「食品衛生法」や「食品表示法」等の知識を習得するために、食品製造関係の資格取得を目指した講義の実施
- ・食品の機能性、食品の成分分析方法など、食品に関する知識を深めるため、南九州大学と連携した専門的な講義の実施
- ・商品開発の過程における官能評価法について、専門講師による講義の実施
- ・HACCPの考え方を取り入れた衛生管理法について、専門家を招聘した講義の実施

②農畜産物の生産に関わる基礎知識の習得

- ・県内で生産され加工に用いられる、代表的な農産物である葉菜類、根菜類(イモ)等の生産実習を実施することで、特性を理解させる。
- ・商品化や販売を見据えた生産計画に基づく実習の実施

■取組実績と成果

①フードビジネスに幅広く対応できるスキルの習得

- ・製造・販売に必要な「食品衛生法」「食品表示法」等の講義を実施し、将来フードビジネス現場で生かせる知識が習得できた。
しかし、食品表示検定：3名受検(不合格) 食品安全検定：1名受検(不合格)
合格率：0% (R4:40%)
- ・南九州大学と連携した講義で食品の機能性、成分分析方法について基礎知識を修得した。
(1年生：1名)
- ・専攻2年生3名が『官能評価法』について、専門講師に指導を受け、プロジェクト内容の高度化ができた。
官能評価試験取組者 (3名、100%)
- ・HACCPによる衛生管理法について専門家より講義・演習を受け、実習現場の環境整備・保全について実践できた。
(3名、100%)

②農畜産物の生産に関わる基礎知識の習得

- ・加工原料となる主な露地野菜品目の、サツマイモ、ラッキョウ、スイートコーンの生産実習を行い、基礎技術が習得できた。
(3名、100%)
- ・お芋のフィナンシェ、ラッキョウ甘酢漬、コーンをトッピングした米粉パン等の販売のため、原料農産物の生産計画と商品開発を結びつけた実習を行い、生産から加工の各工程で必要となる基礎知識・技術の習得ができた。
(3名、100%)



加工原料(ラッキョウ)の生産調整



米粉パン販売実

内部評価	B	・検定合格には及ばなかったものの製造・販売に必要な知識の習得ができた。 ・生産から加工・販売に関する知識や技術について、専門講義や実習等を通して幅広いスキルの習得と実践力をつけることができた。
外部評価	A	学生が専門知識や技術の習得が図れるよう課題に対応した講義や実習を通して指導しており評価できる。

◆次年度への課題

- ・講義・実習を通して開発した商品の販売機会が少ないため、機会を増やす。
- ・農大の農畜産物を原料とした商品開発について挑戦するため、他専攻と連携した計画的な講義・実習を行う。

評価項目	2. 教育の資質向上	ウ. 講義・演習	フードビジネス専攻
------	------------	----------	-----------

令和6年度の目標	①商品開発と販売によるフードビジネス関連スキルの習得 ②他専攻と連携した計画的な商品開発による実践力の向上
----------	--

■取組計画

☆は、新たな取組又は強化する取組
 ※「目標」の番号と「取組」の番号は呼応

- ①商品開発と販売によるフードビジネス関連スキルの習得
 ・食品衛生、食品表示、コスト計算、官能評価についての講義・演習の拡充を行い知識、技術の習得に努める。
 (商品開発数 目標：3商品)
 ・販売機会の創出による販売スキルの向上 (販売機会 R5：1回→ R6：3回) ☆
- ②他専攻と連携した計画的な商品開発による実践力の向上 ☆
 (商品開発数 目標：2商品(乳、小麦))

■取組実績と成果

--	--

内部評価		
外部評価		

◆次年度への課題

--

評価項目	2. 教育の資質向上	エ. 研修 (①インターンシップ)	教務学生課
------	------------	-------------------	-------

令和5年度の目標	就農率50%以上を確保
----------	-------------

■取組計画

令和5年度目標達成のための取組と成果(取組の☆は、新たな取組又は強化する取組)

※「目標」の番号と「取組」の番号は呼応

◇目標に対する取組等

【学科共通】

- ・インターンシップや自主企画研修を計画的に実施する
- ・研修受入れ可能な農業法人などの研修先情報を収集し、学生の研修や進路選択に反映させる。
- ・学生進路等に配慮した研修先を選定する。
- ・研修先選定の参考とするための個別面談を繰り返し実施する
- ・事前指導と事後指導の充実を図る。

■取組実績と成果

○研修計画について

- ・インターンシップ (1年生) 5/22～5/26 (5日間実施) → 農家研修
- ・インターンシップ (2年生) 9/26～9/29 (4日間実施) → 農業団体、普及センター等
- ・自主企画研修 (1年生) 10/2～10/27 (4週間実施) → 進路先を見据えて決定

○進路選択へ反映

- ・即就農7名、雇用就農18名、研修後就農1名を就農率53%と進路決定や進路選択に反映できた。
- ・出身地での研修で地域理解や地域における農業団体等の役割について理解する機会となった。

○教育の質の向上

- ・外部講師によるマナーアップ講座を実施し、さらに研修の意義や心得など事前指導を実施
→社会人として必要なスキルアップや知識も合わせて学ぶ機会となった。
- ・研修のまとめとして発表会を実施(事後指導)
→アウトプットの機会(発表会)を設けたことで、研修の振り返りができ教育の質の向上へと繋がった。また、その後のプロジェクト発表会での発表態度や積極的な質問に繋がった。

◆卒業生の進路状況

年 度		元	2	3	4	5
就農	自営就農	12	5	5	12	7
	雇用就農	27	24	12	9	18
	研修後就農	1	3	1	0	1
	小 計	40	32	18	21	26
就職	農業団体	12	9	19	11	12
	農業・食品関係	6	6	15	10	4
	公務員	2	1	2	3	2
	一般企業	2	3	2	3	1
	小 計	22	19	38	27	19
進 学		0	1	2	1	2
未 定		3	0	0	2	2
合 計		65	52	58	51	49
就農率		62%	62%	31%	41%	53%

◎就農率
目標50%以上
結果53%
(達成率106%)

内部評価	B	就農率目標50%を上回る53%となり、達成率106%であった。
外部評価	A	非農家率69%の中、53%の就農率を達成できたことは評価できる。 特に畜産学科の就農率70%は評価できる。

◆次年度への課題

- ・指導職員が進路指導を行うための時間確保を図る。
- ・全職員が進路指導に取り組めるように、就職情報の共有と学生情報の見える化を図る。

評価項目	2. 教育の資質向上	エ. 研修 (①インターンシップ)	教務学生課
------	------------	-------------------	-------

令和6年度の目標	①キャリア教育の充実 ②進路選択を考えた研修先選定体制の拡充
----------	-----------------------------------

■取組

☆は、新たな取組又は強化する取組

※「目標」の番号と「取組」の番号は呼応

①情報の見える化

- ・就職情報の共有と学生情報の見える化を図り、全職員が指導できるような指導体制づくり
- ・これまでの就職情報（試験内容や面接等）をまとめて、情報共有に努める。 ☆
インターンシップⅠ（4月下旬）
インターンシップⅡ（6月上旬）
自主企画研修（7月中旬）

②各研修の効果的かつ円滑な実施

- ・進行管理を図り、計画的に実施
- ・科目としての目的を明確にし、研修先や各学科との調整
- ・事前指導及び事項指導の充実

■成果

内部評価		
外部評価		

◆次年度への課題

--

評価項目	2. 教育の資質向上	エ. 研修 (①インターンシップ)	農学科・畜産学科
------	------------	-------------------	----------

令和5年度の目標	①学生の糧となるような <u>研修内容の充実</u> ②研修が効果的かつ円滑に実施できるよう、 <u>研修先との連携強化</u>
----------	---

■取組計画

令和5年度目標達成のための取組と成果(取組の☆は、新たな取組又は強化する取組)

※「目標」の番号と「取組」の番号は呼応

◇目標に対する取組等

- ①：研修によって得られる効果を高めるため、研修先でのコミュニケーションなど積極的に知識や技術を求める姿勢を持つよう指導を行う
- ②：研修先との連携強化のため、研修先機関や関係団体等とも情報交換を行い、効果的な研修となるよう取組む

■取組実績と成果

①研修内容の充実

- ・インターンシップ研修先の意見を参考に、研修時の注意点や日誌の記載方法等を事前指導したため、学生が研修先で積極的にコミュニケーションを図ることができ効果的な研修となった。
- ・研修先から総合評価全体平均4.3（満点5.0）を得ることができた。
- ・入学時面談と学生への専攻の聞き取りを基に、各学生の進路に合わせた研修先を選定できた。
- ・家畜の飼養管理技術や各種栽培技術について、研修先農場の特徴的な取組を吸収し、農大実習での実践や、将来の経営計画などに取り入れることができた。

②研修先との連携強化

- ・研修先と事前に情報交換を行い、連携を強化したことで、受入時間や人数を調整するなど効果的な研修となった。
- ・就農予定の学生については、インターンシップ先で卒業後の進路を見据え取り組む事ができた。



ブドウの敵粒作業



肉用牛の削蹄作業

内部評価	B	・研修先と連携強化を図り、事前調整を行い効果的な研修に努めたことから、総合評価4.3を得ることができた。 ・研修で得た知識が農大での実習や将来の経営計画の参考となった。
外部評価	B	研修先において、学生が積極的に知識や技術を得ようとする姿勢がみられ、学校だけでは得られない知見や技術を習得することができている。

◆次年度への課題

研修先決定に時間を要する学生については、希望する条件が満たされない点もあったため、研修先選定の支援強化が必要。

評価項目	2. 教育の資質向上	エ. 研修 (①インターンシップ)	農学科・畜産学科
------	------------	-------------------	----------

令和6年度の目標	①学生にとって有意義な研修とするための研修先選定体制の拡充 ②効果的かつ円滑な研修とするための研修先との連携強化
----------	---

■取組計画

☆は、新たな取組又は強化する取組

※「目標」の番号と「取組」の番号は呼応

①研修先選定体制の拡充

- ・自主企画研修は、研修先の選定について夏休み前には十分に説明を行い、早めの選定を促すし、自身で選定できない学生については、学生の意向に合う研修先を7月中に斡旋する。

②研修先との連携強化

- ・インターンシップⅠは、過去の受入実績を参考に研修先の受入人数や時間を事前に調整する。
- ・作業内容を確認した上で、不慣れな作業が含まれている場合は事前に研修先に伝える。
- ・自主企画研修は、学生の進路と研修内容が合致しているか確認し、特に就農予定の学生は事前に受入先と情報交換を行う。

■取組実績と成果

--	--

内部評価		
外部評価		

◆次年度への課題

--

評価項目	2. 教育の資質向上	工. 研修（②職員研修）	教務学生課
------	------------	--------------	-------

令和5年度の目標	授業力及び学生指導力の向上
----------	---------------

■取組計画

令和5年度目標達成のための取組と成果(取組の☆は、新たな取組又は強化する取組)
※「目標」の番号と「取組」の番号は呼応

◇目標に対する取組等

- ①学生による授業評価を実施し、授業実態と改善に努める。
- ②指導力向上に繋がる校内研修会を実施する。（年3回）
 - ・学校生活アンケートを年3回実施し、学生の現状把握と、問題（課題）の早期発見、早期解決に努める。
 - ・Googleformを活用し、アンケート回収や単元テスト等が随時できる校内研修を実施する。
 - ・タブレットを活用した授業の展開に関する研修会等を実施する。
- ③特性のある学生に対応について、校内研修を実施する。

■取組実績と成果

- ①学生による授業評価を実施授業実態と改善について
 - ・学生の評価項目「講義に対する満足度」では、10年満点で7.6点であり、ICTを活用した授業を行うなどの工夫が必要である。
- ②指導力向上について
 - ・農業系高校8校を訪問しタブレット活用に関する授業参観を実施した結果、参加した9割の指導職員が大変参考になったと回答
 - ・Googleformの活用した生活実態調査を実施し、早期発見、早期対応に努めた結果、退学者が前年比の50%（2名）に減少した。
 - ・本校における授業評価を実施する場合、単位時間数、授業時期、時間割編成の関係で統一した実施が難しい。また、評価基準の明確化や一貫性、フィードバックのあり方、学生の多様性など検討が必要
- ③特性のある学生に対応する校内研修を実施
 - ・職員研修
8月3日（木）講師 久保田 聖 氏(有)日伸洗車機キャリアコンサルタントジョブコーチ
〔成果〕特性のある人への対応について、講演内容は理解できた。
実際の対応は一人一人の特性が違うので、職員間で情報共有を行い、正しい理解と正しい対応を行う。
○職員の満足度：大変良い（14）、ある程度良い（4）あまり良くない（0）良くない(0)

◆評価の根拠

内部評価	B	・学生の評価は7.6点であったが、授業改善の参考になった。 ・農業高校での参観授業では、9割の職員が効果を確認した。 ・特性のある学生への対応について、理解を深めることができた。
外部評価	A	・学生一人一人を理解し、教科指導、生活指導に取り組まれている点が素晴らしい。直ぐに結果が出ないが継続して取り組んでいただきたい。

◆次年度への課題

- ・授業評価のあり方について検討し、授業評価を定期的実施する。
- ・タブレット活用について校内研修を実施する。

評価項目	2. 教育の資質向上	エ. 研修 (②職員研修)	教務学生課
------	------------	---------------	-------

令和6年度の目標	学習指導力と学生指導力の向上
----------	----------------

■取組計画

☆は、新たな取組又は強化する取組

※「目標」の番号と「取組」の番号は呼応

①学習指導力の向上

- ・学生による授業評価を実施し、授業実態の把握と改善に努める
- ・アンケート実施（授業評価、学校生活）3回以上し学生の状況把握を図る。
- ・ICT活用に関する校内研修を実施 ☆
- ・農業系高校以外での授業参観、意見交換を実施 ☆

②学生指導力の向上

- ・特性のある学生対応について校内研修を実施

■取組実績と成果

--

◆評価の根拠

内部評価		
外部評価		

◆次年度への課題

--

評価項目	2. 教育の資質向上	エ. 研修 (②職員研修)	農学科
------	------------	---------------	-----

令和5年度の目標	①授業力及び学生指導力の向上 ②担当分野の専門知識の習得及び専門指導力の向上
----------	---

■取組計画

令和5年度目標達成のための取組と成果(取組の☆は、新たな取組又は強化する取組)

※「目標」の番号と「取組」の番号は呼応

◇目標に対する取組等

①授業力及び学生指導力の向上

- ・職員のドローンインストラクター研修(1名)、ドローンオペレーター研修(1名)、伐採・チェーンソー作業従事者特別講習(2名)受講(☆)
- ・全国農業大学校協議会主催の指導力向上研修会への参加

②専門指導力の向上

- ・品目毎技術員会や技術調整会議、各種研修会への参画による指導力向上
- ・高校等と連携したプロジェクトの実施
- ・県内外の先進的な取組・技術の調査研修の実施
- ・九州地区農業大学校協議会の部門別研修会への参画

■取組実績と成果

①授業力及び学生指導力の向上

- ・高校の先生と合同で県外先進農業視察研修(2月)を行うことで、高大連携が図られ、講義や学生のプロジェクト学習に役立てた。
- ・職員のドローンインストラクター〔2名〕やオペレーター〔1名〕を確保し学生のドローン操作技術向上指導に反映できた。
- ・伐採・チェーンソー作業従事者〔3名〕を確保し、学生の機械操作のレベルアップや校内圃場や周辺の鳥獣害対策等環境整備に役立てた。

②専門指導力の向上

- ・指導力向上・部門別研修等に参加(6回、延べ10名)
特に「西日本ブロック花き担当者会」、「九州地区作物担当者会」の幹事として現地研修や意見交換を企画し、学生のプロジェクト設定や実習指導に役立てた。



12月:農業教育研究会機械・情報部会



12月:西日本ブロック花き担当者会

内部評価	B	・高校との連携による研修や職員6名の各種資格取得などにより、授業力及び学生指導力の向上につながった。 ・指導力向上・部門別研修に積極的に参加し、専門指導力の向上に努めた。
外部評価	A	・職員の伐採・チェーンソー作業従事者確保という新たな取組を行い、資格取得が学生の指導力向上に反映できている。

◆次年度への課題

- ・職員の資格取得や研修会参加を推進するため、行事調整や時間割作成を早めに行う。

評価項目	2. 教育の資質向上	エ. 研修 (②職員研修)	農学科
------	------------	---------------	-----

令和6年度の目標	①学生指導力の向上 ②担当分野の専門知識の習得及び専門指導力の向上
----------	--------------------------------------

■取組計画

☆は、新たな取組又は強化する取組

※「目標」の番号と「取組」の番号は呼応

①学生指導力の向上

- ・ 月1回の学科会における行事調整と時間割確認☆
- ・ 職員の各種資格取得の推進
ドローンインストラクター（1名）、ドローンオペレーター（1名）、
フォークリフト（1名）☆、農耕用限定大型特免許（2名）☆、食品衛生責任者（1名）☆

②専門知識の習得及び専門指導力の向上

- ・ 品目毎技術員会や部門別各種研修会等への参加（8回 延べ12名）
- ・ 県内外の先進的な取組・技術調査研修の実施

■取組実績と成果

--	--	--

内部評価		
外部評価		

◆次年度への課題

--

評価項目	2. 教育の資質向上	工. 研修 (②職員研修)	畜産学科
------	------------	---------------	------

令和5年度の目標	①授業力及び学生指導力の向上 ②担当分野の専門知識の習得及び専門指導力の向上
----------	---

■取組計画

令和5年度目標達成のための取組と成果(取組の☆は、新たな取組又は強化する取組)
※「目標」の番号と「取組」の番号は呼応

◇目標に対する取組等

①授業力及び学生指導力の向上

- ・職員が大特免許、けん引免許取得やGAP指導員、車両系建設機械技能講習の受講

②専門知識の習得及び専門指導力の向上

- ・指導力向上を図るため、専門技術員との調査研究を実施
- ・技術員会や技術調整会議、各種研修会への参画による指導力向上
- ・高校等と連携したプロジェクト活動等の実施

■取組実績と成果

①授業力及び学生指導力の向上

- ・職員の免許取得：大特免許（1名）、けん引（1名）、車両系建設機械技能講習（2名）
- ・学生と一体となって飼料生産作業等に取り組み、学生への安全運転・操作指導を行い、専門性と安全意識の高い指導を行った。
- ・作業機械について故障等発生時に専門的な対応が必要とされ、苦慮する場面も見られた。

②専門知識の習得及び専門指導力の向上

- ・専門技術員と協同で調査研究を実施し、調査項目や試験方法について協議しながら進めることで、指導の場における高い学びの構築へとつながった。
- ・肉用牛（肥育）専攻：J A宮崎経済連和牛共励会 初出品した。



大型特殊免許取得に挑む職員



協同調査研究牛の調査

内部評価	B	・職員が資格取得に努め、学生指導に反映させることができた。 ・専門技術員とも連携しながらより高い専門指導を行うことができた。
外部評価	A	学生指導のために職員自ら資格の取得に取り組み、調査研究でも専門技術員との連携や共励会への出品などより高いレベルの学びが提供できている。

◆次年度への課題

職員の研修で講義や実習の都合により必要な講習会が受講できない事態が発生しないよう調整する。
飼料収穫作業において、学生が専門性の高い機械操作について指導を受けることで機械の故障などの発生を防ぐ。

評価項目	2. 教育の資質向上	エ. 研修 (②職員研修)	畜産学科
------	------------	---------------	------

令和6年度の目標	①担当分野の専門知識の習得及び専門指導力の向上 ②専門機関と連携した高度な指導体制の構築
----------	---

■取組計画

☆は、新たな取組又は強化する取組

※「目標」の番号と「取組」の番号は呼応

- ①担当分野の専門知識の習得及び専門指導力の向上
- ・「学生による授業評価」による授業の把握と改善
 - ・職員が各種資格を取得することによる専門技術の指導力向上
- ②専門機関と連携した高度な指導体制の構築
- ・専門技術員と連携した調査研究の実施による技術指導の高度化
 - ・専門業種を所管する企業、機関と連携した専門性の高い指導体制の構築

■取組実績と成果

--	--

内部評価		
外部評価		

◆次年度への課題

--

評価項目	2. 教育の資質向上	エ. 研修（②職員研修）	フードビジネス専攻
------	------------	--------------	-----------

令和5年度の目標	①授業力及び学生指導力の向上 ②担当分野の専門知識の習得及び専門指導力の向上
----------	---

■取組計画

令和5年度目標達成のための取組と成果（取組の☆は、新たな取組又は強化する取組）

※「目標」の番号と「取組」の番号は呼応

◇目標に対する取組等

- ①← 教務学生課まとめ
 - ・「学生による授業評価」による授業実態の把握と改善
- ②担当分野の専門知識の習得及び専門指導力の向上
 - ・指導力向上を図るため、先進事例調査研修をを実施

■取組実績と成果

②専門知識の習得及び専門指導力の向上

- ・徳島県立農大の学生模擬会社「そらそうじゃ」・・・教職員（1名）学生（3名）視察研修アグリカレッジひなたの活動内容充実に向けた方策を研究し、今後の活動課題や目標について学生と共有できた。学習内容を全学生と共有するため全校集会において「活動報告会」を指導した。
- ・関西圏の市場流通調査・・・同上
農産物等の流通について実地で学び、指導資料作成に生かせる知識が習得できた。
- ・愛知県で6次産業を実践している農場や牧場・・・教職員（1名）
米粉や乳を活用した製造方法や資材調達について学んだ知識を学生指導の現場で活かした。



徳島農大におけるロビー販売の取組を学ぶ



大阪市中央卸売市場でセリを学ぶ

内部評価	B	・県外での各種の先進事例調査を行い、専門分野の新たな知識・情報を習得し、専門指導力の向上が図られた。
外部評価	A	指導力向上のため自ら研修を企画し、学生と研修に参加するなど前向きな取り組みができており、学んだ知識等を指導現場で生かし専門性の高い指導に結びついている。

◆次年度への課題

研修で得た知識や資料を継続的に指導現場で活かすため、効果的な指導資料作成を行う。

評価項目	2. 教育の資質向上	エ. 研修（②職員研修）	フードビジネス専攻
------	------------	--------------	-----------

令和6年度の目標	①担当分野の専門知識の習得及び専門指導力の向上
----------	-------------------------

■取組計画

☆は、新たな取組又は強化する取組

※「目標」の番号と「取組」の番号は呼応

- ①担当分野の専門知識の習得及び専門指導力の向上
- ・継続的に指導現場で活かせる効果的な指導資料の作成 ☆
(レシピの見える化 目標：3商品)

■取組実績と成果

--	--	--

内部評価		
外部評価		

◆次年度への課題

--

評価項目	2. 教育の資質向上	オ. プロジェクト学習	農学科
------	------------	-------------	-----

令和5年度の目標	①高大、産学官や地域との連携を踏まえたプロジェクト活動の実践 ②自ら課題を発見し、解決できる能力の向上 ③課題解決能力の向上による優れた農業経営者等の育成
----------	---

■取組計画

令和5年度目標達成のための取組と成果(取組の☆は、新たな取組又は強化する取組)

※「目標」の番号と「取組」の番号は呼応

◇目標に対する取組等

①、②、③共通

- ・学科や農業高校、各関係機関と連携した地域連携型プロジェクト学習の実施
- ・チャレンジファームの活用や関連企業等との連携による課題解決に向けた取組の実施
- ・中間プロジェクト発表会等を活用した課題解決に向けた助言の実施
- ・チャレンジファーム活用経営体との連携によるスマート農業の実践
- ・県高校農業教育研究会との連携による教育の充実

■取組実績と成果

○地域資源活用(プロジェクトの取組 R4:4名→R5:12名)

- ・野菜専攻焼酎粕加工液や焼酎粕固形資材を活用したプロジェクト活動(8名)
- ・作物専攻笹サイレージを活用したプロジェクト活動(4名)
- ・いずれも外部講師の講義で資材の活用方法や実証試験結果について学び、課題解決能力の向上に役立てている。

○高鍋町、木城町との連携(有機農業のイベント参加 R4:1回→R5:3回)

- ・6月:高鍋・木城オーガニックビレッジ宣言(4名)
- ・12月の地域有機資源調査を行うフィールドワーク(延べ14名)
- ・2月の高鍋・木城オーガニック憲章発表会(4名)

学生が有機農業の未来を担う立場に立ち、両町長や町民の前で意見を述べるなど、日頃のプロジェクト活動の成果がみられた。

○チャレンジファームとの連携(R4:0回→R5:2回)

- ・環境負荷低減講座における現地研修
- ・スマート農業基礎講座における機械実演を通して実践的に農業を学んだ。



7月スマート農業基礎
ジェイエフーズみやざき移植機実演



2月環境負荷低減講座
キャベツ研究会現地研修

内部評価	B	・地域資源を活用したプロジェクトの取組数が昨年度より増加した。 ・有機農業の実践に向け地元との連携が増え、課題解決能力が向上した。 ・チャレンジファーム活用経営体の講義や研修により、農業経営能力向上が図られた。
外部評価	A	次年度から農大校で始める有機農業の取組を視野に入れ、環境負荷低減講座を実施し、地域循環型の農業や有機農業実践者の講義及び現地実習を行っている。

◆次年度への課題

・次年度から取り組む有機農業のカリキュラムを計画的に実施するため、本課、高鍋農業高校、高鍋町・木城町との連携強化に努める。

評価項目	2. 教育の資質向上	オ. プロジェクト学習	農学科
------	------------	-------------	-----

令和6年度の目標	①現状や地域の課題を捉えたプロジェクト学習テーマの設定 ②プロジェクト学習を通じた経営能力や技術の向上
----------	--

■取組計画

☆は、新たな取組又は強化する取組

※「目標」の番号と「取組」の番号は呼応

- ①現状や地域の課題を捉えたプロジェクト学習テーマの設定
- ・チャレンジファームと連携した講義や研修（3回）
 - ・学生みどり戦略チャレンジ登録（3課題）☆
 - ・普及指導員や試験場職員を交えたプロジェクト課題の選定（1専攻）☆
- ②プロジェクト学習を通じた経営能力や技術の向上
- ・本課、木城町、有機栽培実践企業等を講師とする有機農業概論の実施☆
 - ・有機JAS認証団体、高鍋農業高校、有機栽培者等と連携した環境負荷低減講座の実施☆

■取組実績と成果

--	--	--

内部評価		
外部評価		

◆次年度への課題

--

評価項目	2. 教育の資質向上	オ. プロジェクト学習	畜産学科
------	------------	-------------	------

令和5年度の目標	①高大、産学官や地域との連携を踏まえたプロジェクト活動の実践 ②自ら課題を発見し、 <u>解決できる能力の向上</u> ③課題解決能力の向上による優れた農業経営者等の育成
----------	---

■取組計画

令和5年度目標達成のための取組と成果(取組の☆は、新たな取組又は強化する取組)

※「目標」の番号と「取組」の番号は呼応

◇目標に対する取組等

①、②、③共通

- ・学科や農業高校、各関係機関と連携した地域連携型プロジェクト学習の実施
- ・中間プロジェクト発表会等を活用した課題解決に向けた指導助言の実施
- ・高鍋農業高校との連携による、畜産の知識技術の向上と、プロジェクト学習の充実を図る。

■取組実績と成果

①地域や産学官連携の取組

- ・地域との連携に向けた取組

肉用牛においてはプロジェクト活動で繁殖性の向上や飼料のコスト削減、肥育牛の早期出荷等、乳用牛においては暑熱ストレス対策など地域の課題に焦点をあてた取組を行った。

- ・産学官連携の取組

民間企業と連携して行う、耕作放棄地の解消やバイオ燃料の活用等を目的とした新品種の飼料作物栽培利用試験に参画し、栄養成分分析や牛への給与試験に取組、地域の重要な課題解決への知見を習得した。

②、③課題解決能力の向上や優れた農業者の育成

- ・7月〔学生プロジェクトの中間発表会を実施〕

これまでの成果、今後の取組計画の発表を行いプロジェクト研究をより充実させるための検討を行い、方向性の修正やデータとしてより深く追求すべき事などの認識を改めることができた。

- ・12月〔プロジェクト発表会を実施〕

2年生：課題解決のための調査、データの収集、技術の構築を行うことで知識や技術を高めることができた。

1年生：プロジェクト学習についてのテーマや手法について学ぶことができ、学生自身の



学科内プロジェクト発表



プロジェクト活動にて乳加工品を試作

内部評価	B	・民間企業と連携して、産学官によるプロジェクト活動を実践できた。 ・農業生産の現場での課題を解決するためのプロジェクトの取り組めた。 ・プロジェクト活動を通じて農業経営につながる知見が深められた。
外部評価	A	地域の課題を捉えたプロジェクトテーマになっており、解決のための手法について検討し、課題解決能力を育む、実りある学習活動となっている。

◆次年度への課題

プロジェクト学習を通じた調査研究について、地域への普及を念頭においてデータを蓄積する必要がある。

評価項目	2. 教育の資質向上	オ. プロジェクト学習	畜産学科
------	------------	-------------	------

令和6年度の目標	①現状や地域の課題を捉えたプロジェクトテーマの設定 ②課題解決のため学生が自ら考え、普及性のある結論を導く調査技術の取得 ③プロジェクト学習を通じた経営能力や技術の向上
----------	--

■取組計画

☆は、新たな取組又は強化する取組

※「目標」の番号と「取組」の番号は呼応

- ①現状や地域の課題を捉えたプロジェクトテーマ設定
 - ・講義や実習、研修等を通じた現状や地域の課題の認知
 - ・SNS等を活用した情報、データ収集による課題設定
- ②調査技術の取得
 - ・普及性のある結論を導き出すための調査方法の指導及び検討
- ③経営能力や技術の向上
 - ・コストに対する意識や経営に結びつく技術の習得に結びつく調査研究の実施

■取組実績と成果

--

内部評価		
外部評価		

◆次年度への課題

--

評価項目	2. 教育の資質向上	オ. プロジェクト学習	フードビジネス専攻
令和5年度の目標	①高大連携プロジェクト活動の実践 ②自ら課題を発見し、解決できる能力の向上		

■取組計画

令和5年度目標達成のための取組と成果(取組の☆は、新たな取組又は強化する取組)

※「目標」の番号と「取組」の番号は呼応

◇目標に対する取組等

①高大連携プロジェクト活動の実践

- ・高鍋農業高校食品科学科、フードビジネス科の学生と連携し、先端食品加工機器を利用した商品開発に向けた研究の実施。
- ・南九州大学食品開発科学科と連携し、県内産農産物を活用した商品開発の研究の実施(☆)

②自ら課題を発見し、解決できる能力の向上

- ・プロジェクト活動において、農大校産の農畜産物を原料とした商品開発に取り組み、農大市やイベント等で販売を実施(☆)
- ・原材料となる農畜産物の生産工程、現場における実習も併せて行うことでの総合的な学習を実施。
- ・農大市など販売の機会を活かした学生出資会社の売上向上に係る学習活動を強化(☆)

■取組実績と成果

①高大連携プロジェクト活動の実践

- ・高鍋農業高校食品科学科と連携→ 食肉加工、乳加工の合同研修会を実施。その成果を『乳製品フェスタ』や『農大祭に』等での販売実習で行った。
- ・南九州大学食品開発科学科のサマーキャンプに参加。商品開発での微生物汚染の課題や異物混入、アレルギー汚染についてグループワークで学び理解できた。(☆) (2年生3名、1年生1名)

②自ら課題を発見し、解決できる能力の向上

- ・プロジェクト活動で、原料調達、製造、食品分析検査、官能評価など、商品化に必要な知識、技術を体系的に学び、販売で生産から加工・販売について修得できた。(2年生:3名)
- ・学生出資会社「アグリカレッジひなた」で、SNS活用した販売促進を行い、EC販売の実証試験で、客層や商圏の拡大に取り組んだ。
- 全国農大校プロジェクト活動発表で優秀賞を受賞した。(1名)(☆)
- ・原材料となる農産物の生産、収穫作業の実践や、生乳の生産現場実習を実施。食品加工だけでなく生産に関わる総合的な学びを深めた。(2年生:3名)
- ・農大市などで販売する商品の原価計算、値決め等を学生自ら実践し、学生が理解を深めると共に、学生出資会社の売上向上に反映する経験ができた。(会社全体売上:前年比92%)(☆)



高大連携 乳製品の販売実習



全国プロジェクト発表大会で発表する学生

内部評価	B	・高大連携によりプロジェクト活動を実施した。 ・課題解決学習を計画的に行い、自ら課題を発見し、解決できる能力の向上を図ったことで1名が全国大会で優秀賞を受賞した。
外部評価	A	・学生自ら課題設定し、解決できる能力の向上を図るため、学生の主体性を意識した指導を行い、各自が課題解決能力を高めたことは評価できる。

◆次年度への課題

- ・プロジェクト活動における課題設定や解決方法の検討等を通じて人材育成を図る。
- ・地域との連携で学生の視野を広げ、活動を活性化する事で知識・技術を向上する。

評価項目	2. 教育の資質向上	オ. プロジェクト学習	フードビジネス専攻
令和6年度の目標	①高大連携プロジェクト活動の実践 ②自ら課題を発見し、解決できる能力の向上		

■取組計画

☆は、新たな取組又は強化する取組
 ※「目標」の番号と「取組」の番号は呼応

- ①高大連携プロジェクト活動の実践
 ・ 高鍋農業高校との連携による課題解決能力の向上 (目標：肉加工研修 1 回)
- ②自ら課題を発見し、解決できる能力の向上
 ・ 地域と連携したプロジェクト活動による課題解決能力と実践力の向上 ☆
 (地域内菓子製造店舗での調査研修 目標：2 カ所 2 回)
 (県内パン製造業者との連携による農大小麦の活用研修 目標：1 社 2 回)

■取組実績と成果

--

内部評価		
外部評価		

◆次年度への課題

--

評価項目	2. 教育の資質向上	力. 学生指導・支援	教務学生課
------	------------	------------	-------

令和5年度の目標	学生自治活動の活性化とリーダー育成
----------	-------------------

■取組計画

令和5年度目標達成のための取組と成果(取組の☆は、新たな取組又は強化する取組)

※「目標」の番号と「取組」の番号は呼応

◇目標に対する取組

- ①役員の意識や資質向上を目指して、研修会や定期的な役員会を実施する。
- ②活動目標や年間目標を定め、各部会の積極的な活動を実施する。
- ③自治会規則の見直しや改訂を実施する。

■取組実績と成果

①研修会や定期的な役員会を実施

- ・毎月2回程度定例役員会を実施し、自治会行事に関する企画・運営を検討することで先見性、計画性とリーダー性を身に付けることができた。
- ・また行事後は役員間でフィードバックを実施し、改善策の検討も行った。
- ・九州リーダー研修会に参加し、他県の学生との交流や意見交換を行ったことで、学生リーダーとしての使命感が芽生えるなどリーダーとしての意識向上につながった。
- ・しかし、研修会で学んだことを役員間で積極的に共有していないため、

②各部会の積極的な活動を実施

- ・自治会が組織する各種部会において、年次活動計画を立て概ね計画通りに実施できた。
- ・しかし、一部の部会では、プライベートを優先する役員もあり、リーダーシップを執らないことが積極的な活動へとつながらない事例もあった。

③自治会規則の見直しや改訂

- ・規則の見直し、改定に関する検討会を実施したが、活発な意見もなく有為な答えを見いだすことができなかった。

内部評価	C	・学生の主体性、自主性に任せていて行事等は行ったものの、目立った成果までは至らなかった。 ・規則見直しや改訂に関する有為な答えを得られなかった。
外部評価	C	・上記の報告から難しい面があると思うが、学生と職員が連携を充にし、魅力ある農大校作りを行ってほしい。

◆次年度への課題

- ・役員間で使命感に温度差があり、信頼される人材づくりを目指したリーダー研修会を実施する。
- ・各種行事で抽出された反省点を役員全員が意識し、次の活動に確実に生かす。
- ・規定等の見直しに関するアンケート等を実施し、実態を把握したうえで時代のニーズに沿った規定の見直しを検討する。

評価項目	2. 教育の資質向上	力. 学生指導・支援	教務学生課
------	------------	------------	-------

令和6年度の目標	学生自治会組織の活性化とリーダー育成
----------	--------------------

■取組計画

☆は、新たな取組又は強化する取組
※「目標」の番号と「取組」の番号は呼応

- ①学生自治組織の活性化
- ・ 役員の意識や資質の向上を目指し、研修会や定期的な役員会を実施
 - ・ 活動目標や年間目標を定め、各部会毎の積極的な活動を実施
 - ・ 生活環境を整えることを目的に、毎月1回のクリーン活動の実施 ☆
 - ・ 実態調査を行った上で、規定等の見直しを実施する ☆
- ②リーダー育成
- ・ 自主自立を目指し、全学生による自治活動を推進

■取組実績と成果

--

内部評価		
外部評価		

◆次年度への課題

--

評価項目	2. 教育の資質向上	力. 学生指導・支援	農学科
------	------------	------------	-----

令和5年度の目標	農場長と各専攻部長を中心とした農場運営の充実、「ひなたGAP」及び「ASIAGAP」実践の徹底
----------	---

■取組計画

令和5年度目標達成のための取組と成果(取組の☆は、新たな取組又は強化する取組)

※「目標」の番号と「取組」の番号は呼応

◇目標に対する取組

- 2年生から1年生への円滑な農場運営の引き継ぎ支援
 - ・【GAP演習】【農業生産工程管理】の講義開催
 - ・各GAPのマニュアルや基準書の自己点検、外部講師の評価・改善指導実施(☆)
 - ・環境整備部(学生)の環境美化活動を活用した整理整頓、棚卸の実施

■取組実績と成果

○農場運営

- ・12月には1年生主体の農場運営体制が整い、毎月の環境整備では学生が主体性を持って役割分担や人員配置を行い、2月8日には新体制の下で土地改良区の水路清掃も効率的に行うことができた。(運営体制整備1月→12月)

○GAP

- ・農業生産工程管理の講義やGAP演習、ASIAGAPやひなたGAPの更新審査を経験することで、学生のGAPに対する理解力や実践力が高まった。
- ・ASIAGAPの更新審査では、教育機関としてこれまでよりも厳しく改善指導が求められたが、基準書の見直しなどを経て取組のレベルアップにつながった。

○農場等の環境整備

- ・月1回の環境整備を活用した農薬や肥料などの棚卸しでは、栽培日誌とGAPの記帳の整合性をとるなど、学生が記帳の大切さを理解するようになった。



6月ひなたGAP【穀物】更新審査



11月ASIAGAP更新審査

内部評価	B	学生の農場長をトップとした運営体制整備が、計画を前倒して12月に整備され、環境整備でも学生が主体性をもって取り組み、また日誌とGAPの記帳の大切さを理解するようになった。
外部評価	B	整理整頓などは出来ているが、運搬車の事故が発生しているので、今後注意して指導して頂きたい。

◆次年度への課題

- ・農業機械、施設・設備の定期的な点検整備、指導体制を整える。

評価項目	2. 教育の資質向上	力. 学生指導・支援	農学科
------	------------	------------	-----

令和6年度の目標	農場長を中心としたGAPの実践と農場運営の充実
----------	-------------------------

■取組計画

☆は、新たな取組又は強化する取組

※「目標」の番号と「取組」の番号は呼応

- ・指導者のメンテナンス研修参加（3名）☆
- ・1年生対象の安全運転講習の開催（6月までに1回）
- ・物品管理部（学生）機械担当の点検整備記録の充実☆
- ・「GAP演習」、「農業生産工程管理」の講義や環境整備部（学生）の環境整備を活用した各GAPの自己点検、整理整頓、棚卸しの実施

■取組実績と成果

--	--

内部評価		
外部評価		

◆次年度への課題

--

評価項目	2. 教育の資質向上	力. 学生指導・支援	畜産学科
------	------------	------------	------

令和5年度の目標	GAPの認証取得とGAPの取組実践による学業、農業、生活指導の徹底
----------	-----------------------------------

■取組計画

令和5年度目標達成のための取組と成果(取組の☆は、新たな取組又は強化する取組)

※「目標」の番号と「取組」の番号は呼応

◇目標に対する取組

- ・農場実習における、2年生から1年生への円滑な農場運営の引き継ぎ支援を行う。
- ・講義や校外学習、実習によるGAPの取組指導及び管理の徹底

■取組実績と成果

○講義「畜産指導演習」での取組み

- ・農場運営について、2年生から1年生への引継を7月に行った事で、効率的な作業移管を進め、2年生不在時や休暇日の管理等について円滑に実施できた。

○講義で「農業生産工程管理」、「GAP演習」を開講

- ・学習内容の理解を深め、専攻実習で栽培管理や作業等の記録及び物品数の在庫管理を徹底した。また、農場内の環境整備を実施し、安全で効率的な作業体制が構築できた。

○JGAP認証の更新(今年度)

- ・更新審査について学生が主体となり受験し、制度への更なる理解と実践的な学びができた。
- ・農場審査に向けた取組で、実際の作業手順の見直しや安全管理の再構築ができ、農場管理も向上した。



2年生による1年生への指導



JGAP更新審査の聞き取りを受ける学生

内部評価	B	・農場運営について2年生から1年生への引き継ぎが適切に行われた。 ・講義や実習を通じてGAPに対する理解を深めることができ、安全で効率的な作業体制の構築が図られた。
外部評価	B	農場審査の受験を通じて、改めて作業手順の見直しや安全管理の再構築ができている。2年生から1年生への引き継ぎも確実に行われている。

◆次年度への課題

GAPにおいて求められる記帳や安全管理について職員の指示を受けて対応する場面もあったため、自主的に取り組む体制を作る必要がある。

評価項目	2. 教育の資質向上	力. 学生指導・支援	畜産学科
------	------------	------------	------

令和6年度の目標	農場長を中心とした農場運営の充実やGAPの実践
----------	-------------------------

■取組計画

☆は、新たな取組又は強化する取組

※「目標」の番号と「取組」の番号は呼応

- ・農場運営において、農場長が中心となって作業計画を立案し指示することで、実習を通して学生が学びを実感できる体制を構築する。
- ・講義や実習を通じたGAPの自主的実践を促し、農場作業手順の遵守や記録記帳の徹底により、GAPに基づく農場運営を行う。

■取組実績と成果

--

内部評価		
外部評価		

◆次年度への課題

--

評価項目	3. 進路指導	キ. 資格取得	教務学生課 農学科・畜産学科 フードビジネス専攻
------	---------	---------	--------------------------------

令和5年度の目標	実用的な資格取得の推進
----------	-------------

■取組計画

令和5年度目標達成のための取組と成果(取組の☆は、新たな取組又は強化する取組)

※「目標」の番号と「取組」の番号は呼応

【資格取得の推進】

- ①基礎学力の定着として、農業技術検定3級100%合格を図る。
- ②農大校学習レベル向上のため、農業技術検定2級、簿記検定3級等の資格取得に努める。
- ③大型特殊免許の全員取得に努める。
- ④ドローン操作演習を選択教科とし、資格取得できる体制を構築する。
- ⑤意欲的な資格取得を推奨する。

【資格取得に関わる業務改善】

- ⑥大型特殊とドローン資格の取得について、現状、課題、対策を明確にし業務改善に努める。

■取組実績と成果

○資格取得の推進

- ①農業技術検定3級 1年生合格者なし
- ②農業技術検定2級 2名合格
農業簿記検定3級 17名合格
- ③大型特殊免許 1年生(100%合格)
- ④ドローン操作資格 27名

⑤意欲的な資格取得

- ・大特やけん引については、受講者数も合格者数も高い(100%)
- ・畜産学科特有の人工授精、削蹄については、資格取得を目的に入学する学生も多く、意欲的に取り組んでいる。
- ・資格取得を推進するために、入学前に取得した資格取得の単位化に繋げた。

○資格取得に関わる業務改善

- ・新たに取り組んだドローン操作資格だが、外部委託に頼たよらなければならない現状
- ・ドローンに関する職員の負担軽減を図るために、農業散布用ドローン操縦講習及び更新業務を南栄工業に委託
- ・分校化に伴う講習費の値上げで、講習費が6万円から13.5万円に上がり学生負担増
- ・カリキュラム内にて大特免許取得のあり方を検討

内部評価	B	・大特、けん引、人工授精、削蹄等は受検者数が多く合格者も多いが、その他については受検者数が少なく、取得率も前年比89%だった。
外部評価	B	・内部評価のとおり評価する。

◆次年度への課題

- ・資格取得を推進するために、カリキュラムを改善し、入学前に取得した資格に関しては単位を認めるように規則を見直したので、今後その検証が必要
- ・農業技術検定等の基礎学力向上を目的とした資格取得について、学校としての方針を検討

評価項目	3. 進路指導	キ. 資格取得	教務学生課 農学科・畜産学科 フードビジネス専攻
------	---------	---------	--------------------------------

令和6年度の目標	実用的な資格取得に推進
----------	-------------

■取組計画

☆は、新たな取組又は強化する取組

※「目標」の番号と「取組」の番号は呼応

①カリキュラム見直しに伴う検証

- ・カリキュラム及び教務内規の変更に伴う検証 ☆
- ・基礎核力向上を目的とした資格取得のあり方の検討 ☆

②資格取得に関わる改善等

☆実施時期や検定代、内容等を整理し周知（学生便覧に反映）

- ・ドローン操作演習に関わるあり方を検討
- ・大特・けん引等農業機械に関する資格取得とカリキュラムのあり方について検討

■取組実績と成果

--	--

内部評価		
外部評価		

◆次年度への課題

--

評価項目	3. 進路指導	ウ. 就農・就職対策	教務学生課 農学科・畜産学科 フードビジネス専攻
令和5年度の目標	①年内の進路確定 100% ②就農者及び農業関連産業就職者（関係団体・企業・農業高校等）の進路選択率100%		

■取組計画

令和5年度目標達成のための取組と成果（取組の☆は、新たな取組又は強化する取組）

※「目標」の番号と「取組」の番号は呼応

◇目標に対する取組み等

- ①農業法人組合や農業関連企業等、ハローワークとの連携を強化する。
- ②就職試験に向けた、学科による個人指導の充実に努める。
- ③法人マッチングの充実及び成果を活用した就職活動の推進に努める。
- ④就職相談会の早期申込みや学生の意識高揚を行うために、情報提供の実施を図る。
- ⑤就農コーディネーターや関係機関と連携した就農サポートを実施する。
- ⑥安心安全メールや学校ホームページ、電子掲示板等を活用し、情報提供の充実に努める。
- ⑦実習助手希望者に対し、高鍋農業高校との連携による教育実習実施を図る。

■取組実績と成果

①年内の進路確定100%

- ・年間を通して、安心安全メールを活用し、進路情報を提供した。
- ・法人マッチング（64社参加）を実施し、就農、雇用就農、県内就職を推進した。また年間を通して、メール等にて進路情報を発信した。NO.1～NO.100の就職情報（40回／年）
- ※年間を通して、前年まで行っていた情報提供や法人マッチングの充実に図ったが、成果としては現れなかった。
- ※学生から情報で、あまりにも情報量が多すぎて、メールを見なくなっていると情報を得た。また、メールに頼り対面での説明不足を指摘された。
- 年度途中から月一回全校集会を定期的の実施し、情報の共有を図った。

- ・年内の進路確定は、82%で3月末までには98%となった。

②就農者及び農業関連産業就職者の進路選択率100%

年 度		元	2	3	4	5
就 農	自営就農	12	5	5	12	7
	雇用就農	27	24	12	9	18
	研修後就農	1	3	1	0	1
	小 計	40	32	18	21	26
就 職	農業団体	12	9	19	11	12
	農業・食品関係	6	6	15	10	4
	公務員	2	1	2	3	2
	一般企業	2	3	2	3	1
	小 計	22	19	38	27	19
進 学		0	1	2	1	2
未 定		3	0	0	2	2
合 計		65	52	58	51	49
就農率		62%	62%	31%	41%	53%

令和5年度卒業生の進路状況

区 分	人数	割合
就農	26名	53%
農業関連就職	16名	33%
小 計	42名	86%
その他	7名	14%
合 計	49名	100%

内部評価	B	・年内の進路確定は、82%であった。 ・就農者及び就農関連産業就職者は86%であった。
外部評価	B	・内部評価のとおりで評価する。

◆次年度への課題

- ・全職員が進路指導に取り組めるように、就職情報の共有と学生情報の見える化を図る。

評価項目	3. 進路指導	ク. 就農・就職対策	教務学生課 農学科・畜産学科 フードビジネス専攻
------	---------	------------	--------------------------------

令和6年度の目標	①年度内の進路決定100% ②就農率55%以上を確保
----------	-------------------------------

■取組計画

☆は、新たな取組又は強化する取組

※「目標」の番号と「取組」の番号は呼応

◇目標に対する取組み等

①年度内の進路決定100%

- ・学生情報や就職情報を共有し、情報の見える化に努める。 ☆
- ・これまでの就職情報（試験内容や面接等）をデータ化し、進路指導の充実を図る。 ☆
- ・農業法人や農業関連企業、ハローワーク等との連携を強化し出口指導の充実を図る。
- ・学生への意識付けに努め、教育相談期間やアンケートを実施し早期進路決定に繋げる。

②就農率55%以上を確保

- ・農大での教育活動とおして、毎年就農率55%を目標に努める。
- ・法人マッチングの充実及び成果を活用した就職活動の推進に努める。
- ・就農コーディネーターや関係機関と連携した就農サポートに努める。

■取組実績と成果

--	--

内部評価		
外部評価		

◆次年度への課題

--